

八坪 二段廿代 大米重名内
 九坪 五段卅代 大米重名内
 十坪 四十代 東得用内
 十一と 二段廿代 大米重名内
 十二と 七段卅代 大米重名内
 廿五と 一段十五代 福王名内
 廿七と 七段卅代 七郎丸名内
 五と 十五代 惣太名内
 已上貳町捌段定
 又貳段 惣太名内
 都合田地參町定
 延文元年七月廿六日 政所 源泉□
 (この源某は、地頭大桑玄猷の政所なるべし。)
 八月五日。大桑玄猷、石川郡白山宮に上林郷内の田地を賣渡す。
 【白山比咩神社文書】 石川郡 四七六
 賣渡 加賀國上林郷内田地事

合貳段者在坪者眞買名内
 右田地者、依有要用、以白山御供田料、御下知案文代錢拾貫文限、永代、止萬雜公事可爲一圓之地、雖爲何輩者可被申行重科者也。仍賣券狀如件。
 延文元年八月五日 沙彌 玄猷
 八月十六日。後光嚴院、石川郡白山宮及び金劔宮神人の山城臨川寺領加賀郡大野莊段米・升米を濫妨するを停めしめ給ふ。
 【臨川寺文書】 山城 四七七
 臨川寺雜掌申、加賀國大野庄段米并升米白山・金劔宮神人等謹責事、善均上人狀、如此。子細見狀候歟。可尋沙汰之由、可被仰武家之旨、天氣所候也。仍言上如件。
 八月十六日 左權中將隆家奉
 進上 西園寺大納言殿
 八月廿五日。大桑玄猷、石川郡白山宮に上林郷内の田地を寄進す。

【白山比咩神社文書】

四七八

奉寄進 加賀國上林郷内田地事

合參段者 在坪相四郎名内□□
 限東江 限南□
 四至 限西河 限北□

右當郷地頭職者、爲玄猷相傳私領、無相違地也。而依有所願成就、所奉白山太神宮也。爲御供田、永代可令、仍不可有萬雜公事。若背此狀、輩者可被申行重科也。仍寄進、

延文元年八月廿五日

沙彌 □□

八月廿八日。幕府、加賀守護富樫氏春をして、石川郡白山宮及び金劔宮神人の山城臨川寺領加賀郡大野莊段米・升米を濫妨するを停めしむ。

【臨川寺重書案文】 山城

四七九

臨川寺雜掌申、加賀國大野庄段米・升米等事、白山・金劔宮神人等謹責云々、所被下給旨也。申狀、如此。子細載狀。於當庄者、先立被停止方々畢、不日退彼妨、載起

請之詞、可被申請文之狀、依仰執達如件。

延文元年八月廿八日

左京大夫 在判

富樫 介殿

正平十二年

丁酉

紀元二〇一七

延文二年

京都

二月十三日。幕府、加賀守護富樫氏春をして、江沼郡額田・八田兩莊の料所たることを停め、その領主に安堵せしむ。

【森文書】 常陸

四八〇

加賀國額田・八田兩庄事、被帶安堵御教書之間、止料所儀之由、可被相觸當庄領主之狀、依仰執達如件。

延文二年二月十三日

沙彌 在判
沙彌 在判

富樫 介殿

三月廿八日。妙成、石川郡上林郷内の田地を白山宮阿佛坊に質とす。